

1 この科目の構成について

| | | | | | |
|-------|--|-------|------|-----|-----|
| 教 科 | 国語科 | 科 目 | 古典 | 単 位 | 2単位 |
| 対象コース | 情報ビジネスコース | 対象クラス | 2年6組 | | |
| 使用教科書 | 精選 古典 改訂版（大修館書店） | | | | |
| 使用副教材 | やさしく詳しい古典文法テキスト・ノート（尚文出版） 新明説漢文ノート（尚文出版） 古文単語315（桐原書店） | | | | |

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

| | |
|---------|--|
| 学 習 目 標 | —この科目を学習して何を身に付けてほしいのか— |
| | 古典文法や漢文の句法を使いこなして、古文・漢文を読解する能力を養います。また、古典作品の講読を通して、先人のものの見方や感じ方を知り、広い考え方を身につけます。 |
| 学 習 内 容 | —この科目で学習する大まかな内容— |
| | 以下のことを主として学びます。 <古文>…正確な文語文法を習得し、語彙力を養うことによって、古文を読み解く力を身につけます。 <漢文>…訓読法・基本的な句法を使って、漢文を読み解く力を身につけます。 |
| 学 習 方 法 | —この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか— |
| | (1) 学校 授業においては「考える手順」を身につけることが最も大切です。正答に至るまでに必要な事項や思考の手順をノートに書きためましょう。 問題文（口頭での質問も含む）の意図を読み取り、考え、答えを表現する方法を授業で体得しましょう。 (2) 家庭 家庭学習の時間は暗記とドリル学習にあてましょう。知識を定着させる場が家庭学習です。授業で得た知識を確実なものとしてそれをを用いて文章の内容を吟味できるようにしましょう。 |

3 この科目の評価方法について

| | |
|---------------|--|
| 評 価 方 法 | —何をを使って評価するのか— |
| | (1) 定期考査→年5回、定期考査を実施します。授業での学習内容から出題します。 (2) 小テスト→授業の中で古文単語テストを実施します。 (3) 長期休暇中の課題→古文・漢文の演習問題を宿題として課します。 (4) 学期中の課題→授業理解の確認のための宿題を課します。 |
| 評価における定期考査の割合 | |
| 70 % | |

4 この科目の評価の観点について

| | |
|-----------|---|
| 評 価 の 観 点 | —この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか— |
| | (1) 関心・意欲・態度 問題を解決しようとする意欲、つまり考えようとする態度を重視します。 (2) 思考・判断 合理的・客観的な思考や判断ができているかを評価します。 (3) 技能・表現 考えをまとめる力に加え、口頭・文章ともに、受け手に配慮した表現ができる力を重視します。 (4) 知識・理解 定着度だけではなく、知識を得ようとする日常の取り組みを評価します。 |

| 年間学習計画 | | —この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか— | | 重視する評価の観点 | | | |
|--------|----|---|---|-----------|---|---|---|
| 期 | 月 | 学習の項目 | 学習の内容 | 関 | 思 | 技 | 知 |
| 一 | 4 | 宇治拾遺物語 『検非違使忠明のこと』 | 説話を読み、古文の読み方の基礎を確認します。古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解します。 | ● | ● | | |
| | 5 | 徒然草 『家居のつきつきしく』 | 作者、作品に関する文学史的知識を深め、『徒然草』の特色や味わい方を習得します。特に、作者兼好の、自然や人間社会に対する物の見方、感じ方、考え方を理解し、古びることのない『徒然草』の隨筆としての魅力をとらえていきます。また、文法的には、助動詞の用法、使い分け、係り結びや敬語など、古文の文章を理解する上で重要な事項の確認をします。 | ● | ● | | ● |
| | 6 | 故事成語 『知音』『画竜点睛』 『漱石枕流』 | 訓読に関する知識や基本的事項の理解をより確かなものにしていきます。また、基本的な句法や頻出の漢字についても確認します。各故事成語がもとの話からどのように生まれ、使われるようになったか理解します。また、私たちの現代の生活の中で、故事成語などの中国古典に由来する語句が豊富に用いられていることを再認識します。道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |
| | 7 | 鴻門の会 [三]『樊噲瞋目視項王』 項王の最期 [一]『四面皆楚歌』 | 司馬遷の描く項羽を中心とする漢楚の興亡の跡をたどり、そこに示されている歴史観や人間観について考えます。劇的な描写、巧みな人間の抽出、みごとな構成など、簡潔で力強くかつ美しい表現を味わい、『史記』の文章が文学的にもすぐれたものであることを理解します。訓点に従って正確に訓読し、基本的な句法や漢字について、読み方や意味用法が理解できるかを確認しながら学習していきます。 道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |
| | 8 | 土佐日記 『羽根』 | 文学史上における日記文学の意義について学び、理解を深めます。また『更級日記』では平安女流文学についての関心を高めます。文法事項に特に留意しながら、一つ一つの語句の意味を正確に押さえ、丁寧に文章を解釈していきます。単に現代語訳して終わることのないように、登場人物の心情をきめ細かく読み取るなどして、鑑賞にも力を入れていきます。 | ● | ● | | ● |
| | 9 | 更級日記 『あこがれ』 | 唐代の散文を読み、当時の人間の生き方や社会における筆者の考え方、生き方について学びます。語句の意味を丁寧に読み取り、「四面楚歌」の単元と合わせて中国の文学的散文に親しむ態度を養います。 道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |
| | 10 | 源氏物語 『桐壺』 | 平安時代の代表的な長編物語であり、かつわが国の古典文学において最高峰とも言える源氏物語を通じて、優れた古典作品を読むことの喜びを体験します。文脈の中で主語や会話主を正確に把握することにより、敬語法についてもさらに詳しく学習します。 | ● | ● | | ● |
| 二 | 11 | 『桃花源記』 陶潜 | 唐代の散文を読み、当時の人間の生き方や社会における筆者の考え方、生き方について学びます。語句の意味を丁寧に読み取り、「四面楚歌」の単元と合わせて中国の文学的散文に親しむ態度を養います。 道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |
| | 12 | 源氏物語 『桐壺』 | 平安時代の代表的な長編物語であり、かつわが国の古典文学において最高峰とも言える源氏物語を通じて、優れた古典作品を読むことの喜びを体験します。文脈の中で主語や会話主を正確に把握することにより、敬語法についてもさらに詳しく学習します。 | ● | ● | | ● |
| | 1 | 孔子と門人たち 『過猶不及』 『暴虎馮河』 | 儒家の代表的な書物である「論語」や「孟子」の中から代表的な思想を学び、様々な諸子百家の思想について理解を深めます。またそれが現代にどのように繋がっているのかを考え、自分自身考え方や生き方に生かすにはどうすればよいのか、考える契機とします。 道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |
| 三 | 2 | 孔子と門人たち 『過猶不及』 『暴虎馮河』 | 儒家の代表的な書物である「論語」や「孟子」の中から代表的な思想を学び、様々な諸子百家の思想について理解を深めます。またそれが現代にどのように繋がっているのかを考え、自分自身考え方や生き方に生かすにはどうすればよいのか、考える契機とします。 道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |
| | 3 | 孔子と門人たち 『過猶不及』 『暴虎馮河』 | 儒家の代表的な書物である「論語」や「孟子」の中から代表的な思想を学び、様々な諸子百家の思想について理解を深めます。またそれが現代にどのように繋がっているのかを考え、自分自身考え方や生き方に生かすにはどうすればよいのか、考える契機とします。 道徳教育を実施 | ● | ● | | ● |